

向谷先生講演概要

向谷実先生は、音楽プロデューサー、ミュージシャン、作曲家・編曲家、(株)音楽館代表取締役など多彩な経歴を持っておられますが、本日の講演は、作曲家・編曲家という立場、すなわち著作者という立場から著作権の取り扱いを考えるということを中心に話をされました。

向谷先生は、40年間という長い年月を音楽業界で過ごされ、今も現役ですが、30年間は音楽著作権にあまり関心がなかったということです。

音楽著作権というのは、利用されれば使用料という形で収入が入ります。すなわち、向谷先生の主張は、クリエイターは自分の権利が今どうなっているのかについて関心を持つべきだし、著作権を適切に管理することによって、使用料収入の確保や音楽のプロモーション活動をより有効に実施できるということです。向谷先生は、そのことをわかりやすく説明するためにあえて自分の契約書や契約状況を公開され、音楽出版者との契約がどうなっているのか。また、権利を委託している JASRAC との契約内容がどうなっているのか、それによってどのような効果があるのかについて、詳細に説明されました。

また、最近のデジタル化・ネットワーク化の影響で音楽制作の現場がどのように変化しつつあるのか。すなわち、IT 技術の進展の中で、著作者の自由な創作活動がいかに制約されているのかについて、技術及び契約の両面において説明されました。例えば、ゲーム音楽の作曲家の例を取り上げながら、作曲活動がどのような環境で行われているかを説明され、もっとよい環境で創作活動が行われないと優れた音楽ができないのではないかという問題提起もありました。

なお、このセミナーは、ニコニコ動画の生中継が行われましたが、向谷先生の質問に対し会場から挙手を求めると同時に、同じ質問をネットの視聴者に行い、その結果が瞬時に画面に出るなど、会場やネットの視聴者と一体になった双方向の講義になりとても興味深いものでした。

最後に、著作権は特殊な分野だけにどうしても話が難しくなる傾向がありますが、向谷先生の話は実に分かりやすく、著作権に関する知識のない者にも理解しやすかったことを付記しておきます。

【参加者のアンケートから】

参加者 100 名の内 73 名からアンケート回答があり、大半の方から「期待した内容である」「参考になる」との評価を頂きました。

- ・権利意識の薄さがやはり問題なのだとことが分かった。
- ・音楽出版社との契約関係が明瞭になった。
- ・権利者サイドの生の声が聴けて非常に面白かった。
- ・実例で話されたので大変わかりやすかった。
- ・実例がすばらしかった。

【セミナー会場の様子】

